

2026年3月期 決算概要

アキレス株式会社 (コード番号：5142 東証プライム市場)

2026年5月12日

目次

Agenda

1. 2026年3月期 業績
2. 2027年3月期 業績予想
3. 中期経営計画進捗状況

1. 2026年3月期 業績

1. 2026年3月期 業績 – 連結損益計算書

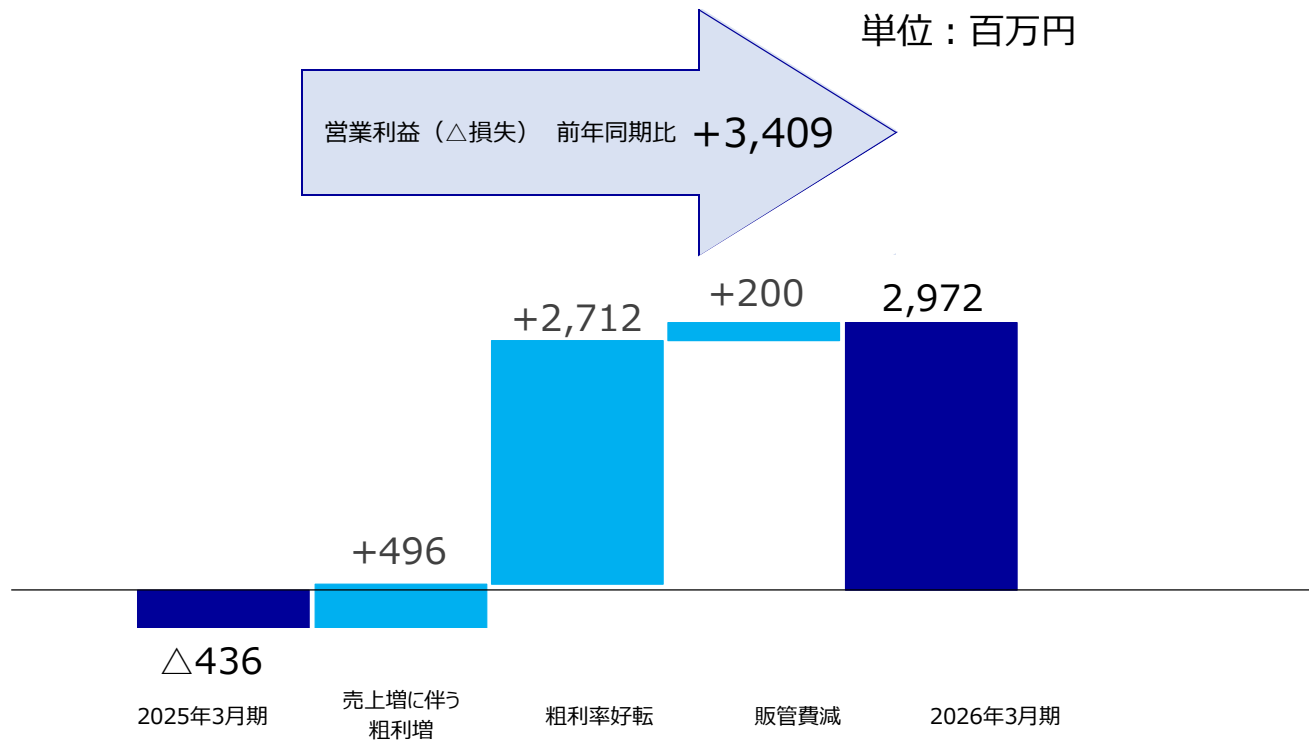


- 売上高は、シューズ及び車輻資材の販売が減少したものの、フィルムのメディカル分野及びエレクトロニクス分野向け、工業資材の半導体ウエハー搬送用及び製造工程用部材の販売が好調に推移したことにより増収
- 営業利益は、収益性の高いメディカル分野向けフィルムの売上大幅増加に加え、工業資材の拡販に伴う売上総利益の増加が寄与するとともに、製造現場における一層の原価低減活動や全社的な経費抑制に継続して取り組んだことにより大幅改善
- 為替差益693百万円や持分法による投資利益181百万円等の営業外損益を加えた経常利益も大幅改善
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、当社防災事業において固定資産の減損損失905百万円を計上したものの、全体として収益性の改善が進展したことから大幅増益

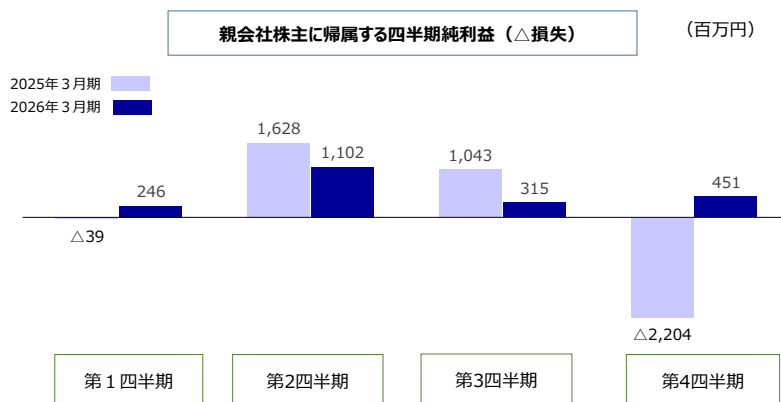
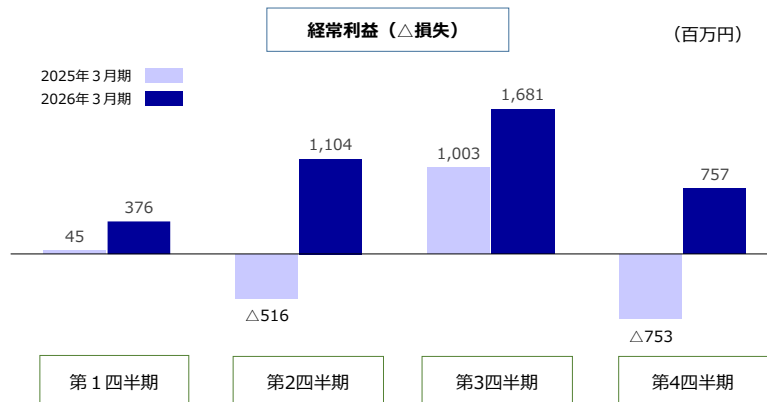
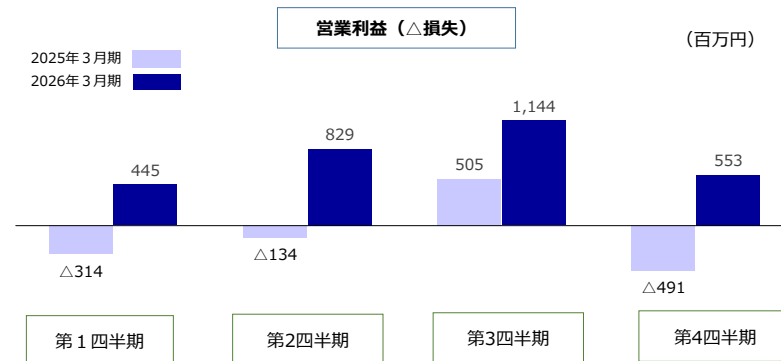
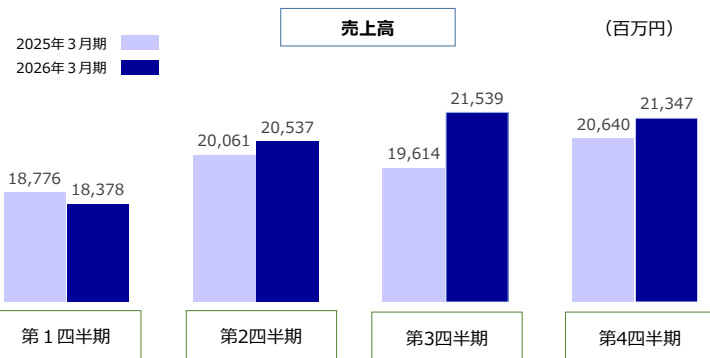
(単位：百万円)

	2025年3月期		2026年3月期		前年同期比		前回予想	予想比
	実績	売上比	実績	売上比	増減額	増減率	2026/2/9	増減額
売上高	79,093	–	81,802	–	2,709	3.4%	81,000	802
売上総利益	14,484	18.3%	17,692	21.6%	3,208	22.2%		
販売費及び一般管理費	14,920	18.9%	14,719	18.0%	△ 200	△1.3%		
営業利益 (△損失)	△ 436	△0.6%	2,972	3.6%	3,409	–	2,300	672
経常利益 (△損失)	△ 220	△0.3%	3,919	4.8%	4,140	–	2,550	1,369
親会社株主に帰属する 当期純利益	427	0.5%	2,116	2.6%	1,688	394.7%	1,450	666
1株当たり 当期純利益 (円)	30.67		154.87		124.20		106.10	

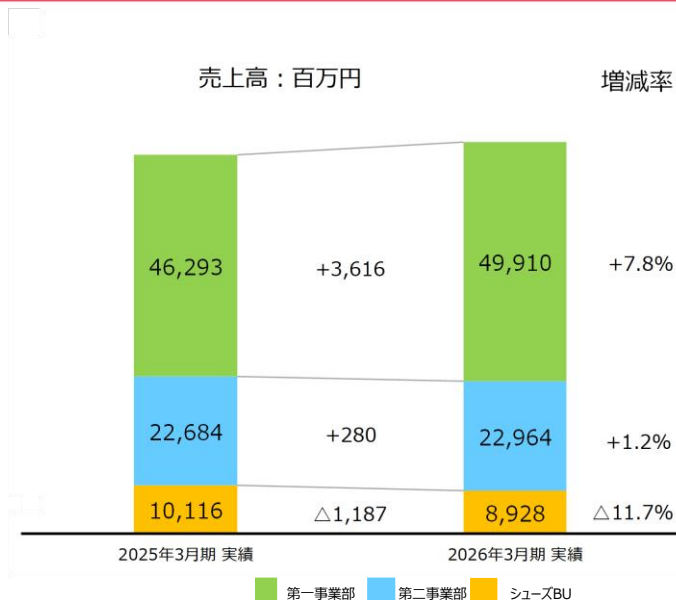
1. 2026年3月期 業績 - 営業利益の増減分析



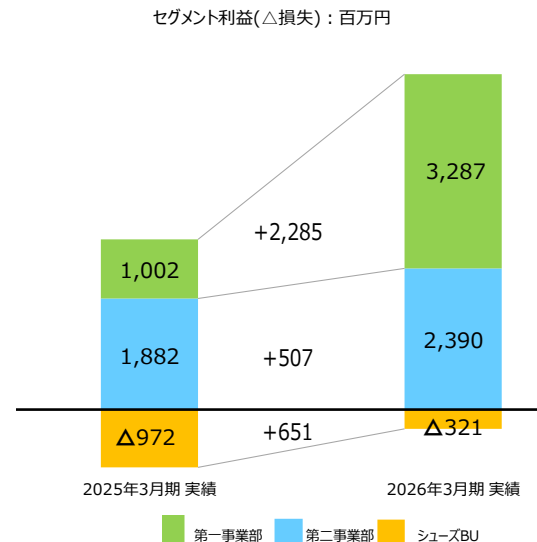
1. 2026年3月期 業績 - 四半期別推移



1. 2026年3月期 業績 – セグメント情報



- 第一事業部は、車輛資材の自動車向けとウレタンの寝具向けの販売が減少したものの、フィルムのメディカル分野向けとエレクトロニクス分野向け、工業資材の半導体ウエハー搬送用及び製造工程用部材が伸長し大幅増収
- 第二事業部は、断熱資材のボード製品やテント・マットなどの防災製品の販売増及び建装資材の販売価格の改定などにより増収
- シューズBUは、主力ブランドにおいて、機能性を追求した新製品投入並びに価格改定を実施したものの、消費者物価の上昇に伴う市場環境の悪化や価格改定の影響等により減収



- 第一事業部は、収益性の高いメディカル分野向けフィルム及び工業資材の増収に伴う売上総利益の増加に加え、製造現場における集約生産等を通じた一層の原価低減活動による原価率改善により大幅増益
- 第二事業部は、断熱資材及び建装資材の増収に伴う売上総利益の増加により増益
- シューズBUは、コスト環境の変化に対応した価格改定に加え、調達コストの見直し及び経費削減など一層のコストダウン活動に努めたことにより損失額が大幅改善

1. 2026年3月期 業績 – 連結貸借対照表



(単位：百万円)

	2025年3月期	2026年3月期	前期末比 増減
流動資産	45,720	46,645	925
有形固定資産	20,244	19,269	△975
無形固定資産	274	361	87
投資その他の資産	13,266	17,351	4,085
資産合計	79,504	83,628	4,123
流動負債	29,161	22,501	△6,659
固定負債	11,006	17,843	6,836
負債合計	40,168	40,345	176
純資産	39,336	43,282	3,946
負債・純資産合計	79,504	83,628	4,123
自己資本比率	49.5%	51.8%	2.3%
一株当たり純資産(円)	2,878.18	3,167.21	289.03

増減の主な内訳	
・ 現金及び預金	2,027
・ 棚卸資産	△ 884
・ その他流動資産	△ 161
・ 建物及び構築物	△ 901
・ 投資有価証券	1,682
・ 退職給付に係る資産	2,404
・ 1年内返済予定の長期借入金	△ 5,750
・ 長期借入金（固定）	5,750
・ 利益剰余金	1,843
・ 退職給付に係る調整累計額	1,319
・ その他有価証券評価差額金	1,153
・ 為替換算調整勘定	△ 383

2. 2027年3月期 業績予想

2. 2027年3月期 業績予想

- 2027年3月期における世界経済は、中東情勢の緊迫化に伴う原油やナフサの調達環境への影響等の懸念があり、当社グループにおいてはナフサ由来のプラスチックを原材料とする製品の製造・販売を行っていることから、原材料調達、原材料価格及び製造活動に影響を及ぼす可能性がある
- 当社グループは、原材料調達について代替調達含めサプライヤーと連携し影響の最小化に努めており、原材料価格やエネルギー・物流コストの上昇に対して原価低減活動や販売価格への適正な転嫁等により、利益確保に努める。なお、中東情勢の緊迫化に伴う影響について、現時点において合理的に算定することが困難であることから、本業績予想には織り込んでいない
- 不確実性の高い事業環境の継続が見込まれる中、次期の業績見通しについて、売上高は、重点分野であるフィルムのメディカル分野及び工業資材のエレクトロニクス（半導体関連）分野を中心に伸長が続くと見込んでいる。利益面では、中期経営計画に掲げている人的資本経営やDX推進など事業基盤強化への積極投資を織り込むとともに、為替レートの変動リスク等の影響を勘案している

(単位：百万円)

	2026年3月期		2027年3月期		前期比	
	通期		通期		通期	
	実績	売上比	予想	売上比	増減額	増減率
売上高	81,802	-	82,500	-	698	0.9%
営業利益	2,972	3.6%	2,200	2.7%	△772	△26.0%
経常利益	3,919	4.8%	2,000	2.4%	△1,919	△49.0%
親会社株主に帰属する当期純利益	2,116	2.6%	1,300	1.6%	△816	△38.6%

配当金
40円
(期末)

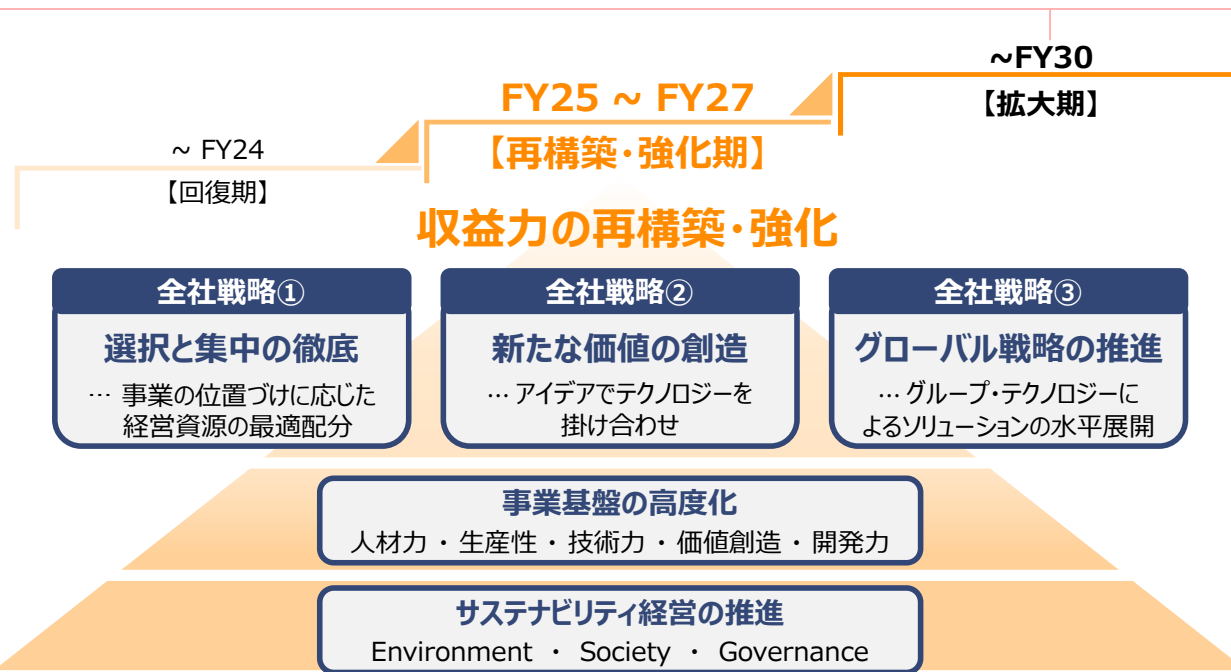
30円 予想
(期末)

3. 中期経営計画進捗状況

2030年度に目指す姿（Vision2030）

アキレスグループは、社員一人ひとりの好奇心、多様な能力、ユニークなアイデア、ひらめきを大切にし、
様々なテクノロジーを組み合わせたソリューションで社会に貢献する

世界に、驚き・喜び・感動を提供し、人々の生活を豊かにする『グローバル ソリューション プロバイダー』を目指す



中期経営計画進捗状況

3-2. 財務実績・目標

- 主要事業の成長により増収、コスト削減や価格改定の効果で増益となり、初年度は計画を上回る進捗となった
- 一方で、中東情勢や資源価格、為替など外部環境の不確実性は、計画策定当初よりも高まっている
- こうした外部環境の変化はあるものの、現時点では計画の見直しは行わず、当初計画に基づき着実に実行する

	2024年度 実績		2025年度 計画*	2025年度 実績		2027年度 計画	2030年度 イメージ
売上高	790億円		810億円	818億円		880億円	1,000億円規模
海外売上高	172億円		—	214億円		220億円	300億円規模
営業利益	-4億円	>	23億円	29億円	>>	30億円	50億円規模
営業利益率	-0.6%		2.8%	3.6%		3.4%	5.0%水準
ROE	1.1%		—	5.1%		5.0%以上	7.0%以上

*2026年2月9日公表値

- The diagram illustrates the business strategy for two divisions, each structured into a 'Basic Strategy' (基本戦略) and 'Progress' (進捗) section.

Shueisha Business (シューズ事業) "Selection and Concentration" (選択と集中)

 - Basic Strategy (基本戦略):**
 - ◆ 4P戦略に基づく選択と集中を断行
 - ◆ 2027年度までに黒字化の目途を見極め
 - Progress (進捗):**
 - ✓ 機能性を追求した新製品投入並びに価格改定を実施
 - ✓ 販促施策の拡大の他、品質・デザインを強化

Vehicle Materials Business (車輻資材事業) "Selection and Concentration" (選択と集中)

 - Basic Strategy (基本戦略):**
 - ◆ 阿基里斯(佛山) 新型材料有限公司の位置づけを再評価
 - ◆ 集約生産と機能性を軸にした差別化や、モビリティ分野全般への事業展開の強化
 - Progress (進捗):**
 - ✓ 阿基里斯(佛山)新型材料有限公司での生産体制の見直しや各製造拠点への再配分推進による事業構造の最適化
 - ✓ 新製法による車輻用内装資材のグローバル拡大体制(開発、製造、販売)の構築に着手
 - ✓ 北米を中心とする航空機向け高難燃内装材の拡販と東アジアを中心としたMRO*市場での新規顧客開拓
※Maintenance, Repair and Operations

13

3-3. 全社戦略① 選択と集中 – シューズ事業 –



- 4P戦略に基づく選択と集中を推進。売上高は約89億円（前年比▲11.7%）となったが、収益改善施策の効果により、セグメント利益は約6.5億円（赤字幅は67.0%減）の改善。引き続き、黒字化の実現に向けて課題への対応を着実に進める。

4P基本戦略	成果	売上高	課題	今期の取り組み(現時点)
Product -高付加価値化 -ソリューション型製品の拡充	✓健康志向や様々な機能のニーズに応える新製品開発を推進 ✓さらなる品質・デザイン強化に向けて、シューズグローバル管理センター立ち上げ(2026.4.1始動)	10,116 8,928	➢ 市場ニーズを反映した製品開発プロセスの高度化	➢ 気候変動に伴う環境変化や安全性を意識したソリューション機能の強化 ➢ B2B企業コラボ製品の推進、デザイン強化
Price -製品価格の適正化 -コストダウン推進	✓製品価格・コスト両面からの収益性改善	24年度 25年度	➢ 更なる原材料価格や為替変動に対応した価格適正化	➢ 高付加価値製品に適合した価格戦略の推進
Place -EC・海外販売の拡大 -販売チャネル最適化	✓ソルボの海外展開強化、香港に新規店舗を出店 ✓自社EC向け製品も開発・上市	24年度 25年度	➢ 販売チャネルミックスの最適化	➢ 自社ECの販売拡大のための限定製品の拡充やポップアップ店舗の展開 ➢ 東アジア・東南アジアへの展開
Promotion -eコマース強化によるファン層の拡大	✓マーケティング体制を強化 ✓SNS・Web広告活用により販促施策を拡大	-972 -321	➢ SNS・デジタル施策による顧客接点の強化とファン層の拡大	➢ PRのアクション数増加に向けた取り組み推進 ➢ アンバサダー活用による情報発信とリアル拠点との連携

単位：百万円

3-3. 全社戦略② 新たな価値の創造

- アイデアでテクノロジーを掛け合わせ新たな価値を創造するために、2025年6月に事業組織を再編した
- 更なるシナジー創出に向けて、横断連携を起点に重点分野へのアプローチを推進する

2025年6月再編

新事業組織

シナジー効果を生み出す事業組織に再編

車輜資材事業部	化成品事業部	建築事業部	防災事業部	ウレタン事業部	断熱資材事業部	工業資材事業部	シューズ事業部	
●	●			●		●		第一事業部
		●	●		●			第二事業部
							●	シューズBU※

※ ビジネスユニット

1

連携基盤の構築

- 部門・拠点間連携の強化
 - 自社事業理解の再徹底を志向したグローバル拠点を含めた事業説明会の開催
- 製販連携の強化
 - 製販横断ワーキンググループ活動の推進

横断連携を起点とした
シナジー創出を推進

2

顧客接点の共有

- 営業ツールの最適化
 - 営業DXワーキンググループでの導入企画推進
- 部門間協力の強化
 - 国内外展示会への出展と顧客説明会、施工・防災体験会の実施

3

新製品開発の推進

- 部門横断活動の推進
 - 防災事業における新製品開発 等
- シナジーによる新製品開発の活性化
 - 社員用アイデアスペースの新設企画（26年度実施予定）

重点分野



エレクトロニクス



モビリティ



メディカル&ヘルスケア

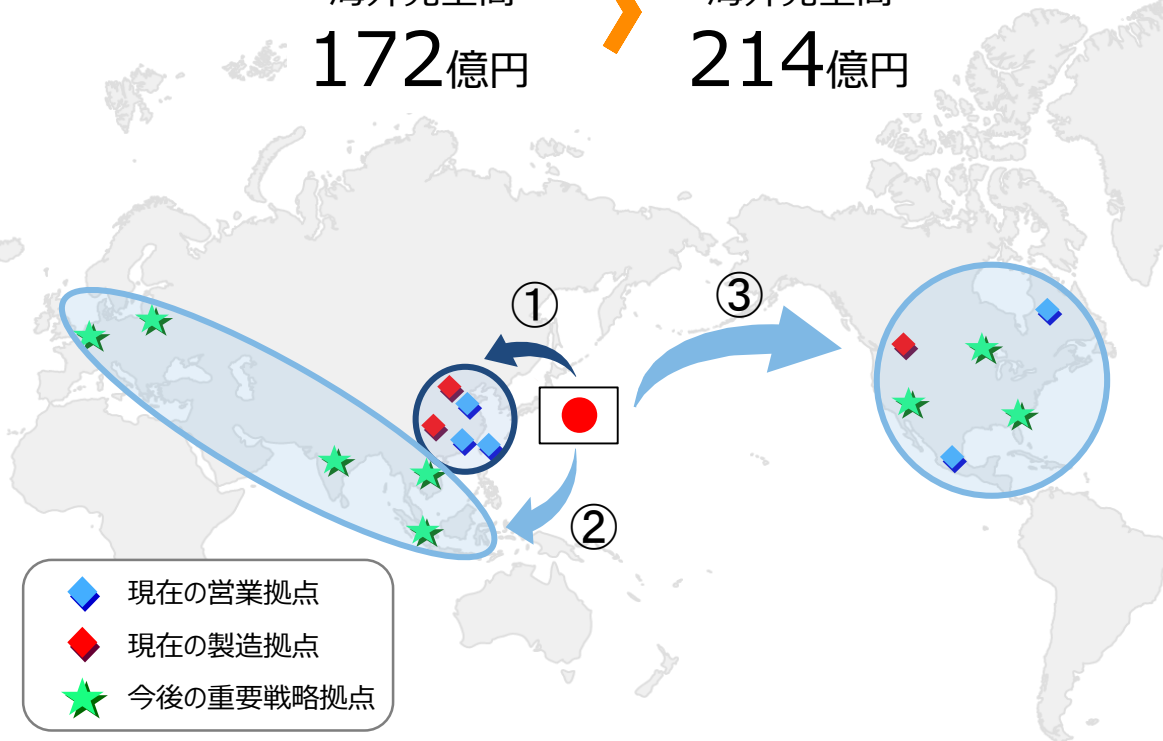


コンストラクション&インフラ



セーフティ・アクティビティ

- | | | |
|-----------------|--|-----------------|
| 2024年度
海外売上高 | | 2025年度
海外売上高 |
| 172億円 | | 214億円 |



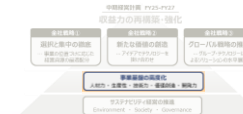
- ✓医薬品製造プロセス用資材でのアライアンス開始
- ✓自動車内装用レザー新製法確立とスペックイン活動開始
- ✓アキレス・ソルボの香港出店、台湾拡販強化によるブランド認知推進

- ✓アジア半導体事業基盤拡充のための拠点整備活動の推進
- ✓データセンター向け資材事業の拡大に向けた活動の推進
(データセンターワールドアジア出展)
- ✓欧州エリアにおけるレジャーボート用素材のシェア拡大に向けた取り組みの推進

- ✓北米拠点での医療分野向け設備の2026年本格稼働
- ✓自動車用内装材の現地生産に向けた連携強化
- ✓セーフティ・アクティビティ分野における販売体制、及び供給体制の再構築を推進
- ✓生成AI・データセンター関連需要を捉えた半導体メーカーとの取引強化、メガテック企業との取り組み開始
- ✓メキシコ拠点の営業活動開始

中期経営計画進捗状況

3-4. 事業基盤の高度化



- 事業基盤の高度化に向けた重点施策を推進し、全社戦略の実現、収益力の再構築・強化につなげる

収益力の再構築・強化

全社戦略の実現

事業基盤の高度化

人材力の向上

- ✓組織改編により人事総務本部、オフィスセンターを設立
- ✓多様な働き方の実現に向けた制度整備（時間単位有休、育児制度拡充）
- ✓働きがい向上のための人事制度・報酬制度の一部見直し
- ✓経営計画実現に資する人材育成強化

生産性の向上

- ✓AI・デジタル技術の活用による業務効率化の推進
- ✓ツール連携による社内ナレッジの活用
- ✓フレキシブル生産体制の確立に向けた取り組み
- ✓スマートプロセス推進運動（業務改善活動）の展開

技術力の向上

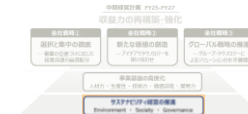
- ✓イノベーション技術本部を設立。競争力・生産性向上のための設備開発を推進
- ✓プロセスインフォマティクスによる製造工程の最適化
- ✓画像データのAI判定モデル構築
- ✓インダストリアル・エンジニアリングのグループ内展開

開発力の向上

- ✓新設計の生分解性能を備えた生分解性マルチフィルム『ビオらいと』を開発
[▶ 詳細はこちら](#)
- ✓貫通孔付きガラス基板への高密着めっき膜形成技術を開発
[▶ 詳細はこちら](#)
- ✓研究開発体制の再構築と重点開発テーマ推進に向けた協働体制の整備

中期経営計画進捗状況

3-5. サステナビリティ経営



- ESG各分野で、今後も様々な施策に取り組み、企業価値向上を図る



E Environment 環境

- 工場への設備投資や電力のリアルタイム管理による省エネ施策の取り組みを通じて、消費電力を削減
- 製造工程で発生する端材や廃材を、シューズ製造の技術を活かし、アップサイクル製品として生まれ変わらせる「I'MOG（アイモグ）」プロジェクトの展開



人とくるまのテクノロジー展
NAGOYAでの展示

プロバレーボールチーム
レイヴス栃木様の
VIP席用シートカバー



S Society 社会

- 猛暑対策として、建物や生活空間での快適性向上と省エネ推進の両立を実現する「アキレス ソーラークリア」を発売

▶ 詳細はこちら

- 地域・社会貢献に向けた取り組み推進
ー 瞬足チャレンジ2025



▶ 詳細はこちら

- ー 足と靴に関する講義を行う出前講座



▶ 詳細はこちら



G Governance ガバナンス

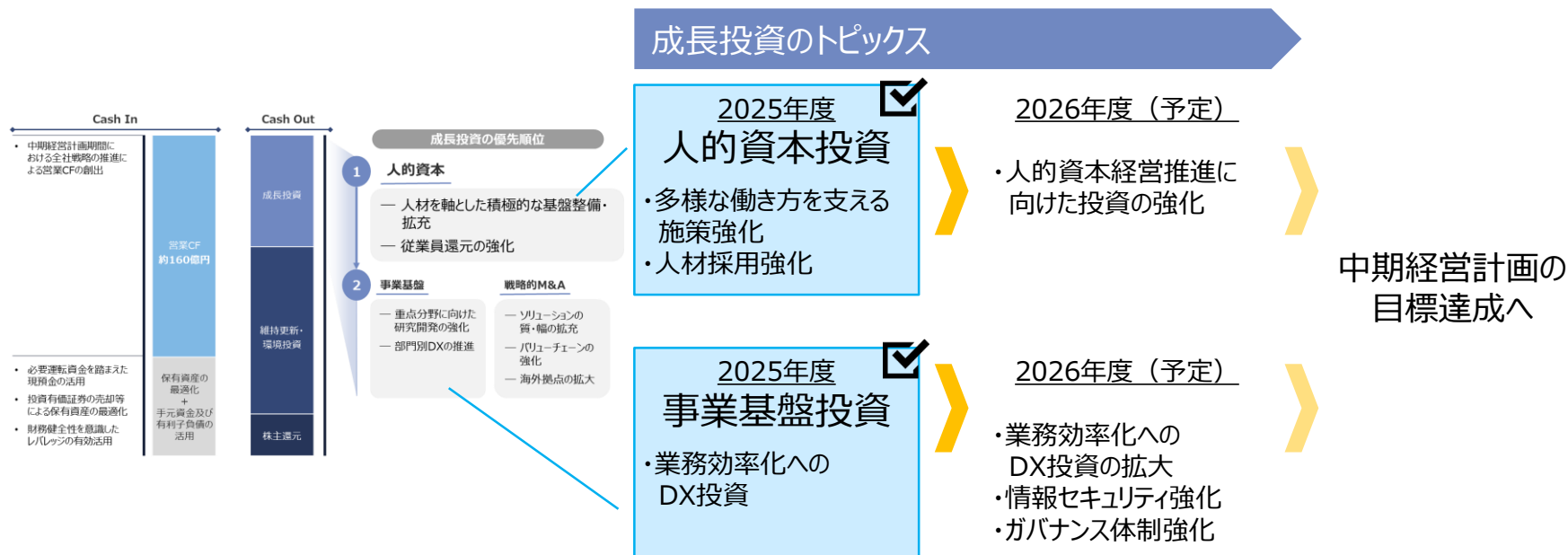
- ガバナンス強化に向けて継続的に施策を実施
 - ・社外取締役1名を追加予定*
 - ・取締役会実効性評価に伴う情報共有を実施
- グローバル戦略の推進に応じた、海外事業ガバナンス体制の強化
- 個人投資家向けWEBページの新設

*社外取締役の就任は、第106回定時株主総会を経て正式決定される予定です。

中期経営計画進捗状況

3-6. 投資計画

- 2025年度は人的資本や事業基盤に向けた成長投資を順調に実施した
- 中期経営計画の目標達成に向けて、2026年度は人的資本経営やDX推進のための積極投資を強化していく



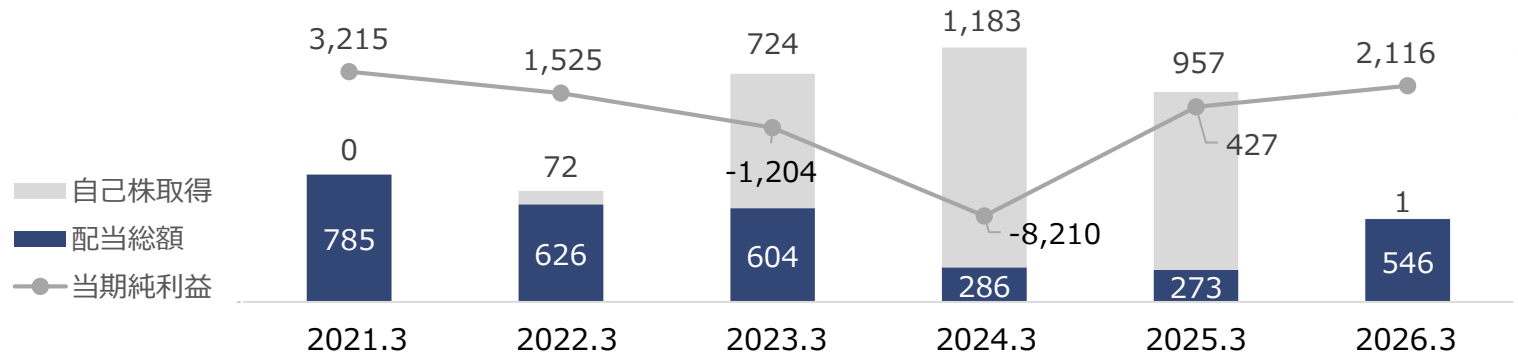
中期経営計画進捗状況 3-7. 株主還元方針



■ 継続的、安定的な配当を基本としつつ、自己株式の取得も機動的に実施し、総合的な株主還元の充実を図る

基本方針	配当	直近の経営状況を踏まえ、当面は特に下記を意識した配当を行う 配当性向30%以上 / 1株当たり配当金50円
	自己株式取得	連結業績や成長投資、株価の状況等を総合的に勘案しながら柔軟に実施する

単位：百万円

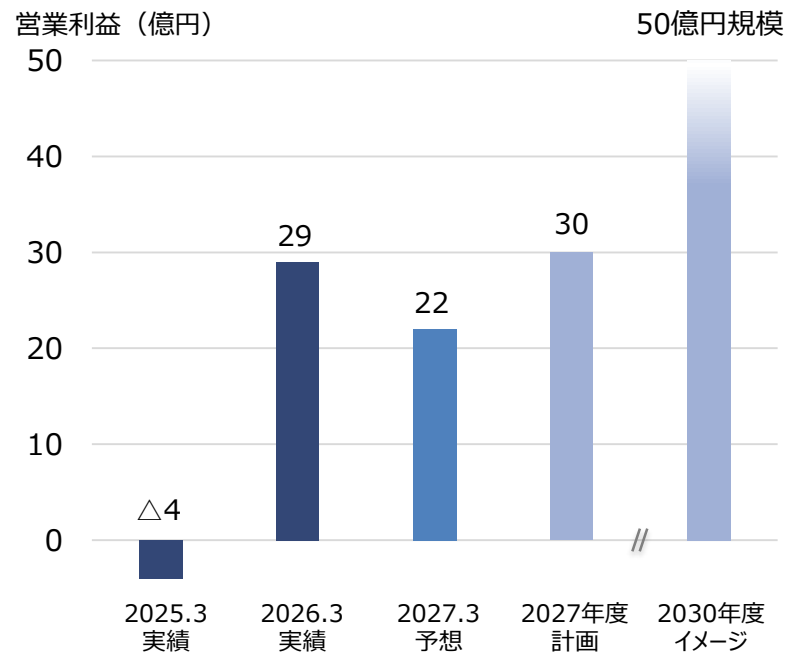
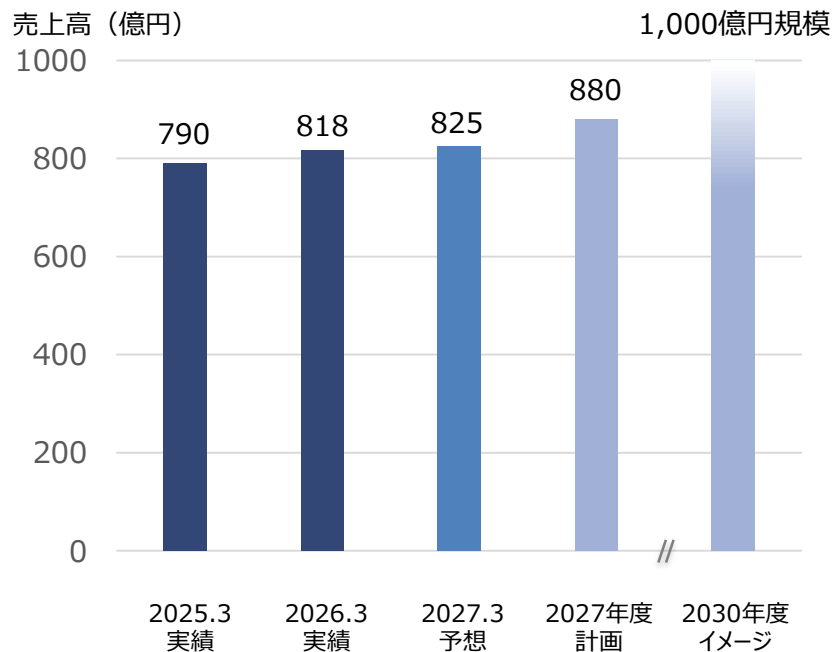


1株当たり配当金 (円)	50	40	40	20	20	40
配当性向 (%)	24.4	41.2	—	—	65.2	25.8
総還元性向 (%)	24.4	45.9	—	—	293.5	25.9

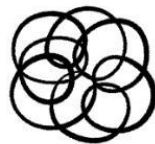
中期経営計画進捗状況

3-8. 経営目標の推移

- 当期の業績について、フィルムの医療分野向け及びエレクトロニクス分野向け、工業資材の半導体ウエハー搬送用及び製造工程用部材の販売が好調に推移したこと、一層の原価低減活動や経費抑制に取り組んだことにより、売上高は818億円、営業利益は29.7億円
- 2026年度の業績予想について、中期経営計画に掲げている人的資本経営やDX推進など事業基盤強化への積極的投資の推進や、為替レートの変動リスク等の影響を勘案し、売上高825億円、営業利益22億円と見込む。なお、中東情勢の緊迫化に伴う影響については、現時点において合理的な算定が困難であることから、本業績予想には織り込んでいない



モヤッと を スカッと に



新しいアキレスが！

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

<お問い合わせ>

アキレス株式会社 IR・経営企画本部

<https://www.achilles.jp/contact/iri/>